

八ヶ岳南麓天文台 電離層モニター観測所 代表：串田嘉男

Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254

※首都圏直下・南海トラフ等大型地震は前兆検知から発生までの日数は数日の可能性が高いですが、No1778前兆は29年の観測歴上最長継続の最大に難解な変動です。No1778前兆につきましてはPHP新書「地震予報」に記したため、読者の皆様へ出版後の前兆変動の変化について続報公開しています。No1778以外の他の地震前兆につきましては本HPでは公開できません。E-mail またはFAXで配信している観測情報でのみ公開しています。本観測研究をご支援下さる皆様にNo1778以外の別の地震前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」には是非ご参加下さい。本年1/1発生の「能登半島地震M7.6」につきましても、2023年12月31日の午前11時に、M7.3±0.5の地震が1/2±2に発生する可能性「予報」を観測情報配信参加の皆様に配信し、地震発生に間に合いました。No1778に関しては解説資料の32頁～35頁を参照下さい。

### 7/29以降 前兆変動が継続した場合は 9/23±3 の可能性も考えられる

前情報では8/7±3発生の可能性を考えておりましたが、本日迄の前兆変化から図1のとおり8/9±3発生の可能性も考えられます。

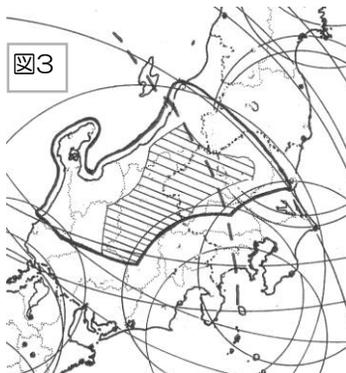
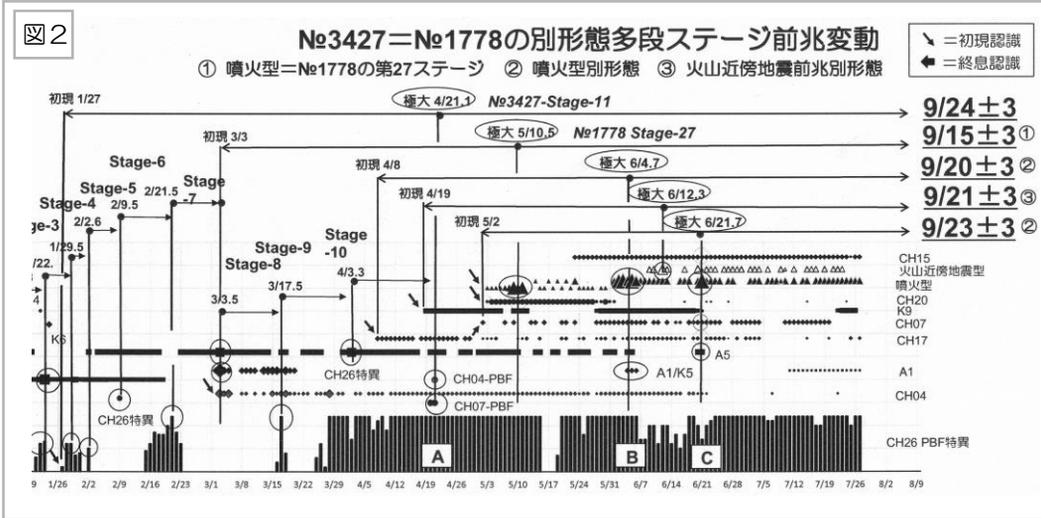
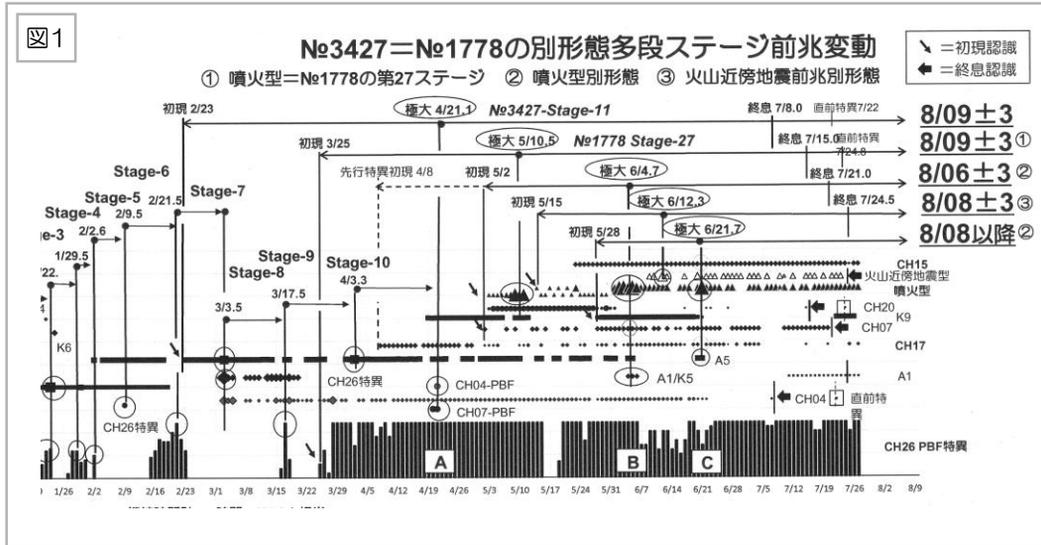
しかし、まだCH26-PBF特異・噴火型変動・CH15特異等、本日も明確に継続出現中で、少なくとも本日中に終息する可能性は低いと判断されます。

7/29までに終息した場合は8/9±3発生の可能性は考えられますが、7/29以降も前兆が継続した場合には、現在の前兆関係の認識が誤りであることとなります。

仮に7/29以降も前兆変動が継続した場合には現認識図1関係が誤りであるためさらに再考しました。右図2は再考した前兆関係を示したものです。

7/22に高知観測点のメンテナンス作業を実施しましたがその際、K9の基線に特異変動が見られました。全観測装置の設定周波数調整後、K9は通常基線を記録していたため、7/22の19時過ぎに作業を終了しましたが、帰台後に高知に接続し、K9基線を見ると19時半頃より再び特異変動が現れ、本日7/27の00時過ぎから正常基線が継続記録されています。このため、K9には特異が出現したと認識されます。

図2ではまだ静穏期に入った変動はないこととなります。7/29以降も前兆継続の場合は9/23±3の可能性が考えやすくなりますが、それ以前に発生の可能性も含め、今後の観測で検討します一両日中に前兆が終息した場合は、すぐに続報を公表予定ですが、続報が無い場合は、7/29以降も前兆変動が継続していることご理解下さい。何度もの再考、大変申し訳ございません。



- 推定領域：図3の太線枠内・火山近傍
- 推定規模：M8.0±0.3  
単発の場合＝M8.0±0.3  
複合の場合＝M7.4+M7.3他等
- ※火山噴火型前兆変動も観測されており地震発生に伴い近隣火山噴火の可能性も否定は困難だが、出現形態が地震前兆のため、確実に噴火するとは断定困難。
- 推定地震種：震源浅い陸域地殻
- 推定発生時刻：  
午前9時±2 or 午後6時±3